

(別紙2-1)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月23日

【評価実施概要】

事業所番号	4271102255		
法人名	有限会社 翠苑		
事業所名	グループホームみどりの岡		
所在地	長崎県西彼杵郡長与町岡郷1422-2 (電話) 095-813-4445		
評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ		
所在地	佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号		
訪問調査日	2007年11月28日	評価確定日	2008年2月14日

【情報提供票より】 (19年 11月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 6人, 非常勤 12人, 常勤換算 15人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	1階建ての 1～1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	7,500+実費 円
敷金	(有) (105,000円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	(有) (100,000円)	有りの場合償却の有無	(有) / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	867 円	

(4) 利用者の概要 (11月 15日現在)

利用者人数	18名	男性 6名	女性 12名
要介護1	-名	要介護2	6名
要介護3	6名	要介護4	5名
要介護5	1名	要支援2	-名
年齢	平均 81歳	最低 61歳	最高 93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	百合野病院 高木歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、交通量の少ない小高い場所に位置し、2棟が向かい合った形で建てられています。ホーム内は、シンプルで機能的な構造になっており、2つのユニットは介護度により使い分けられています。ご利用者の記録については、独自の改良や色分けなどによる見やすい工夫がなされており、それらの記録を効果的に活用した支援も見受けられます。また、地域との関係が良好なこともホームの特色の一つと言えるようです。ホーム内にはご利用者が可愛がられている猫が住み着いており、衛生面に配慮されていますが、ご家族の心配の声も聞かれます。スタッフがやっとな着してきた状況とのことで、これからの取り組みに期待が持てるホームです。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価結果にとらわれない改善活動が展開されています。 改善計画書には、改善のスケジュールまでは記載されていないものの、ホーム独自で検討された改善活動が見受けられます。今後は、評価結果を踏まえた改善活動にも積極的に取り組まれることを期待します。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義がスタッフに浸透しています。 自己評価には、管理者を含む全スタッフで取り組まれており、話し合いにより課題の共通認識が図られています。評価の意義についてもスタッフに浸透しており、今後の改善活動に期待が持てます。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 制度に応じた開催が求められます。 運営推進会議は、開催されておりますが、議事録がなくその内容については確認ができない状況です。市町村担当者の参加や議事録の作成及び公表など、制度に応じた運営が求められます。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご家族の意見の聴取に努め、運営に反映されています。 苦情窓口や意見BOXが設置されており、年2回のアンケートも実施されています。ご意見をもとにケアプランの様式の見直しを行われた事例などもあり、ご意見に基づく積極的な改善姿勢がうかがえます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との連携については積極的に取り組まれています。 地域の清掃活動への参加や葬儀の手伝い、地域の方に対する臨時的な駐車場の開放など、様々な関わりが見受けられます。災害時やご利用者の外出時の見守りについて協力依頼なども行われており、今後の連携体制の継続について期待が持てます。

(別紙2-2)

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ご利用者及びスタッフが共に楽しく過ごせるホームを目指されており、ホーム独自の理念を掲げて実践に向けた取り組みを展開されています。	○	地域密着型サービスの役割について再考し、理念に反映させることが求められます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は掲示され、毎朝のミーティング時や日常的なOJTの中で周知活動が展開されているとのことです。更に入職時の説明も行われており、スタッフ個人毎の自己評価票を毎月活用し、周知活動が行われています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の清掃活動に参加され、葬儀の手伝いや地域の方々に駐車場をご利用頂いた事例もあるそうです。現在は、精霊流しを地域の方々のご協力のもと行事として発足されたいとのことで、積極的に地域とのかかわりを持つよう努められています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果に限らず改善活動には常日頃から取り組まれており、改善事例も確認できます。また、自己評価は全スタッフで取り組み話し合いも行われています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、多くの人の意見をサービス向上につなげる場と捉え、取り組まれております。しかし、そのメンバー構成が不十分で、議事録の作成も無く、管理者は今後改善を図りたいと話されています。	○	運営推進会議には、市町村の担当者の参加や議事録の作成及び公表が義務付けられていますので、早急な改善が必要です。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とのかかわりは、運営に関することの相談など必要に応じて行われている状況です。	○	毎月、パンフレットや広報誌を届けるなど、常に接触する取り組みから始められては如何でしょうか。運営推進会議を活かした取り組みにも期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご利用者の暮らしぶりや状況については、毎月ホーム新聞により報告されており、必要に応じて電話での連絡が行われています。金銭面においては、金銭出納帳を作成され、ご家族に確認頂いた上でサインを頂いておられます。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口や意見BOXを設置されており、アンケートも年に2回実施されています。ご意見をもとにケアプランの様式の見直しを行った事例についても聴取できました。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの出入りが激しかった時期もあったようですが、現在はスタッフが定着しつつあるとのことです。退職者や入職者の挨拶は確実にご利用者に行われ、ご家族にもホーム新聞で紹介されているとのことです。	○	スタッフの定着率の向上に努め、ご利用者が馴染みの関係の中で生活できるよう配慮した今後の取り組みに期待します。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については、その情報が掲示されスタッフの自主的な受講が促されています。内部研修については2ヵ月に1回実施され様々な内容が盛り込まれています。また、スタッフの資格取得への姿勢も見受けられます。しかし、研修計画については確認できません。	○	今後は、スタッフ育成の面から、スタッフ一人ひとりの研修履歴等を把握した上での教育計画作成についてご検討下さい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会やイベントへの参加により同業者との交流の機会を持っておられますが、まだ十分ではないとのこと。共催によるイベントの企画やスタッフ間のホーム相互訪問について今後は計画したいとのこと。	○	現在、検討されているイベントやホーム相互訪問など実現に向けた積極的な取り組みを期待します。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にはご本人やご家族の状況に応じて訪問し、ホームの見学や体験入居にも対応されています。また、その際の記録は情報シートに残し、入居直後からの支援に活用されています。入居直後は居室への持ち込み品により馴染みの空間を作り、好きな食べ物等の情報を得て対応されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームとしては、ご利用者と共に喜怒哀楽を分かち合い共感できるよう心掛けているとのこと。スタッフは、新しいご利用者から、名前を覚えてもらえたときは最高に嬉しいと話されていました。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	時間毎の行動が記録できる個人日誌を活用しご利用者の動向や傾向を把握されています。その記録をもとに、スタッフ間で密な話し合いが行われ意向の把握と共有に努められています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中で聴取したご利用者やご家族からの情報、スタッフの気付きなどについてミーティングで検討され、介護計画が策定されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現在、状態が落ち着かれていますので、介護計画の見直しは6ヵ月ごとに行われています。また、ご利用者の状態変化があった場合の随時の書き込みや削除など、介護計画の変更も行われているとのこと。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者やご家族の状況に応じて、通院介助や入退院時の付き添い、美容室の利用など柔軟な支援が行われています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご利用者等の希望により選定され、希望や状況に応じて医師の説明にも同席されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関する意向については、出来る限り希望に添った対応を心掛けておられ、終末期に対応した実績もあるとのこと。終末期対応に部屋も確保されており、段階に応じた家族への相談も行われています。	○	入居の際など早い段階でご利用者やご家族の意向を確認し記録に残す必要があります。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーへの配慮は、個人毎の自己評価票で意識付けを行われており、記録のとり方にも配慮した指導をされているとのこと。また、個人情報の漏洩防止への取り組みもうかがえます。しかし、個人情報保護法への対応は十分な状況とは言えません。	○	個人情報保護についての規程の整備など、早期対応が求められます。また、個人情報保護法についてスタッフ全員の理解を深めるための取り組みを推奨します。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはありますが、声かけを積極的に行いご利用者の意向を踏まえた対応を心掛けてあります。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備などは、ご利用者の状態に応じてスタッフと協働され、スタッフが同じ食事を同じテーブルで食し、支援が必要なご利用者対応も行われています。献立については、予め定めずご利用者の意向に応じているとのことです。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については、時間や曜日の設定はなく、希望に応じて柔軟な対応が可能とのことです。入浴に関する意向や希望は、希望シートに記録され共有が図られています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の生活歴や生活習慣、職業歴などをバックグラウンドシートに取りまとめ、希望シートとの併用によりその情報を活かした支援が展開されています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に配慮した上で、日常的に外の空気に触れることを心掛けておられます。外出困難な方には、八百屋さんに来てもらい少しでもホームから出るよう促されています。車椅子での支援も行われているとのことです。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠されることなく、ご利用者の外出は、癖や傾向を把握し見守りにより対応されています。地域にもご利用者発見時の協力依頼が行われています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練を実施されています。また、地域への協力依頼も行われています。マニュアルの整備や見直しも行われています。火災報知設備については、来月に設置が予定されていますが、水の備蓄や災害時の必需品などの準備は十分ではありません。	○	水の備蓄や必要品の準備など、様々な災害を想定し常備することについて検討されることを推奨します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量については個別に記録されています。食事の量や形態についての個別対応も見受けられます。食事の記録の専門家によるチェックも行われているとのこと。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは清掃、換気に気を配られているとのことで、季節の花などが飾られています。家庭らしさを大切に考え、木製の手すりが設置されています。ご利用者はそれぞれの居場所で思い思いに過ごされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み品には、特に制限を設けられておらず、ホームでは木製のベッドのみが準備されています。ご家族と相談され馴染みのものを持ってきて頂くよう働きかけも行われているとのことで、居室ではテレビ等の持込が確認できます。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票を添付すること。